

イズミグループ
社会・環境報告書 2024

ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY REPORT

youme あふれる MIRAI にむけて



会社概要

会社名	株式会社イズミ
本社所在地	広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
資本金	196億1,385万円
設立	1961年10月27日
従業員数	正社員 4,400人 パートタイマー 11,048人(1日8時間換算) ※2024年2月29日現在
店舗数	265店舗(エクセル単独店舗6店舗含む) ※2024年8月1日現在
店舗地域	広島県、岡山県、山口県、島根県、福岡県、佐賀県、 大分県、長崎県、熊本県、兵庫県、香川県、徳島県 他
事業内容	ショッピングセンター、ゼネラル・マーチャンダイジング・ ストア(GMS)、スーパーマーケット等の業態による衣料品、 住居関連品、食料品等の販売およびインポート事業
グループ会社	(株)ゆめカード(クレジット・金融事業) (株)イズミテクノ(店舗施設管理) イズミ・フード・サービス(株)(外食) 他

作成部署およびお問い合わせ先



株式会社イズミ サステナビリティ推進部
〒732-8555 広島県広島市東区二葉の里三丁目3番1号
TEL 082-264-3211(代) URL <https://www.izumi.co.jp/>





「youmeあふれる未来」に向けて 誠実に「社会的使命」を果たしていきます

こころ潤う豊かな暮らしをお届けしたい——
 イズミは創業以来、小売業を通じた地域貢献にコツコツと取り組んできました。
 今後はさらに、「お客さま」「地域」「テナント様やお取引先様」「社員」のみなさまの「夢」に寄り添い、
 常に真摯な姿勢で「サステナブルな未来」へと、一步一步着実に前進していきます。



contents

youme MIRAI Action 3
 店づくり実践レポート2023 5

トップメッセージ

株式会社イズミ 代表取締役社長
 山西 泰明 7

イズミの4つの夢

お客さまが心地よく過ごせる空間を 9
 身近な地域に元気と「にぎわい」を 13
 お取引先様とともに一層の発展を 21
 多様な社員が活躍できる環境を 23

2024 youme eco action

省エネ・創エネでCO₂削減 27
 地域に広げる資源循環の輪 29

サステナビリティ・マネジメント

サステナビリティに関する
 考え方および方針 31
 株主のみなさまとの対話を推進 33
 コーポレートガバナンスを一層強化 34

社会・環境報告書の作成にあたって

●編集方針
 イズミでは、CSR(企業の社会的責任)に関わる取り組みを多くの方々にご理解いただくために、社会・環境報告書を作成しています。
 報告項目の選定に当たっては、ステークホルダーのみなさまの関心事と、イズミが事業活動として重視している事項を考慮して取捨選択し、本書にまとめています。内容としては、CSR活動の中心である店舗・従業員の活動をメインに取り上げています。
 記事の作成に当たっては、読みやすさ、理解しやすさに配慮し、写真やグラフ、図などを積極的に取り入れています。
 【最新情報について】
 イズミホームページにて、最新の取り組みや詳細な情報を紹介しています。併せてご覧ください。
 URL <https://www.izumi.co.jp/sustainability/>

●報告書の発行
 今回の発行
 2024年8月(2023年3月1日~2024年2月29日の取り組み内容)
 ※一部、2023年3月以前、2024年3月以降の取り組みについても報告を行っています。
 次回の発行予定
 2025年8月(2024年3月1日~2025年2月28日の取り組み内容)
 ●報告書の対象
 株式会社イズミの取り組みを基本として、グループ会社も一部含まれています。
 ●対象読者
 お客さま、店舗の近隣住民のみなさま、行政、お取引先様、株主のみなさま、学生、NPO、NGO、投資家のみなさま、従業員など



気候変動を和らげるために

店舗運営に伴うCO₂排出量 ※目標・実績は2013年度比



再生可能エネルギー利用拡大

2015年以降、太陽光発電パネルの設置を進めるほか、2021年からはPPA「Power Purchase Agreement（電力販売契約）」モデルの導入を推進。「ゆめmart西条」「ゆめタウン飯塚」「ゆめmart新大村」では、再生可能エネルギーを100%使用しています。

太陽光パネル設置店舗数 **23店舗** (2024年2月現在)
 太陽光発電によるCO₂排出量削減 **2,889.87t-CO₂** (2023年度)



→ その他の取り組みはp27-28で紹介

プラスチックによる環境負荷を低減するために

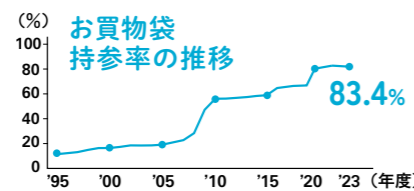
プラスチック製レジ袋使用量 ※目標・実績は2018年度比



使用するレジ袋の素材はバイオマス等へ変更



お買物袋持参率 **83.4%** (2023年度)



木製・紙製カトラリーを使用することで削減されるCO₂排出量 **22.48 t-CO₂** (2023年度)



ペットボトルの水平リサイクル 回収本数 **8,610,705本** (2023年度)

2022年に、使用済みペットボトルを新しいペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」の水平リサイクルを開始。回収機の設置店舗を増やし、お客さまにご協力を呼びかけています。



→ その他の取り組みはp27-30で紹介



食品ロスを削減するために

食品ロス発生量 ※目標・実績は2018年度比



「もぐもぐチャレンジ」全店で好評実施中

「てまえどり」促進のため、シールが貼られた賞味・消費期限近の商品を購入し、シールを集めると各企画へ参加できる取り組みです。例えば店内のシートにもぐもぐシールを貼ると、1枚につき1円が「子ども食堂」へ寄付されます。社会貢献もできるとお客さまに好評で、全店に導入しています。



もぐもぐシール回収枚数 **751,853枚** (2023年度)



フードドライブの実施店舗拡大

お客さまのご家庭で未利用の食品を寄付してもらい、必要とする人に届けるのが「フードドライブ」です。食品ロス削減と社会貢献ができる活動として認知度が高まり、寄付点数は年々増加しています。



食品リサイクルを推進するために

食品リサイクル率



有機肥料などに再生し活用

食品売場のバックルームでは、野菜くずや廃油などをルールに沿って分類。専門業者に委託してリサイクルを進めています。東広島市の店舗から出る食品廃棄物は、地元の双葉三共(株)で有機肥料に再生し、食料資源の循環を後押し。さらに従業員は発注精度の向上や、食品廃棄量の見える化、も実施。食品ロスの削減へ意欲的に取り組んでいます。



→ その他の取り組みはp29-30で紹介



地域を元気にする「街の核」を目指して 店づくり実践レポート 2023

私たちイズミが理想とする店舗は、ショッピングセンターの枠を超えて地域社会の活性化を牽引する「街の核」。その実現に向けて推進した、4つの取り組みについてレポートします。



Report 01 これまで地域になかった「魅力」を結集しました ゆめタウン飯塚 2023年7月29日グランドオープン



📍 ロードイン設計

飯塚市との連携で、1階の店舗中央を市道が貫くロードイン設計を実現。市道上空の2階フロアはゆったりとした売場になっています。



📍 地域初のシネコン

全9スクリーン、1,247席のビッグスケール。IMAXレーザーで超高解像度映像が堪能できます。



📍 小学生向け経済学習体験

小学生向け体験学習「スチューデント・シティ」を飯塚市と協力して実施。お金や仕事について学ぶ機会を提供しました。



「地域のMIRAIが生まれる交流拠点」をコンセプトに、デジタル技術を駆使したシネコンやテーマパーク、人気のファッションや話題の雑貨店など100の専門店を導入。これまで飯塚になかった「魅力」を多数取り入れました。ソファでくつろげる開放的な吹き抜けエリアや、筑豊最大級の1,000席の飲食ゾーンを設置するなど、地域の方々が集い、交流する空間としても機能しています。



スクラップ&ビルドで店舗をアップデートしました

ゆめテラス祇園 2023年11月1日全館オープン

1973年に中国地方初の郊外型大規模店として誕生した「いづみ祇園ショッピングセンター（のちの「ゆめタウン祇園」）」。長年ご愛顧いただきましたが、お客さまと従業員の安全に配慮し建て替えを行いました。完成した「ゆめテラス祇園」は、商品・サービスの充実に加え、デジタルサイネージやビットセルフなど、IT技術も積極的に導入しています。



「ゆめモール」は「通う場所×出会う場所×憩う場所」をキーワードにした地域密着型モールです。

ゆめモール五日市 第1期オープン2024年秋 第2期オープン2025年秋

広島市佐伯区の「ゆめタウン五日市」（1977年開業）を建て替えて再生。専門店が駐車場を取り囲むように並ぶ「ゆめモール」形式の店舗が誕生予定です。



ゆめモール山陽 2025年オープン予定

1998年から営業を続けてきた岡山県赤磐市の「ゆめタウン山陽」。岡山県初の「ゆめモール」に建て替え、便利で快適な施設へと進化させます。



Report 03 全面リニューアルしました ゆめマート八本松

築27年の店舗を、全面リニューアルにより刷新。店舗周辺エリアはヤングファミリー層が増えていることから、ニーズに対応してオーガニック食材や惣菜などを充実させました。



Report 04 10周年をお客さまと祝いました ゆめマート西栄

従業員主体で「地元の銘菓プレゼント」「ちびっこ職場体験ツアー」などを企画。大竹小学校4年生（店舗と同じ10歳）のみなさんには「五・七・五」でお祝いメッセージをいただきました。



新店ではSDGsの強化を図っています ゆめタウン飯塚・ゆめテラス祇園

再生可能エネルギー
100%使用



健康配慮商品コーナー
新設



リサイクルステーション
設置



従業員向け
SDGs研修実施





トップメッセージ

イズミグループは創業60周年を機に経営理念を「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」と決めました。その実現に向けて「地域・お客さま」「環境」「安全・安心」「ダイバーシティ」をマテリアリティ(重点課題)に、事業を通じた社会課題の解決に取り組んでいます。

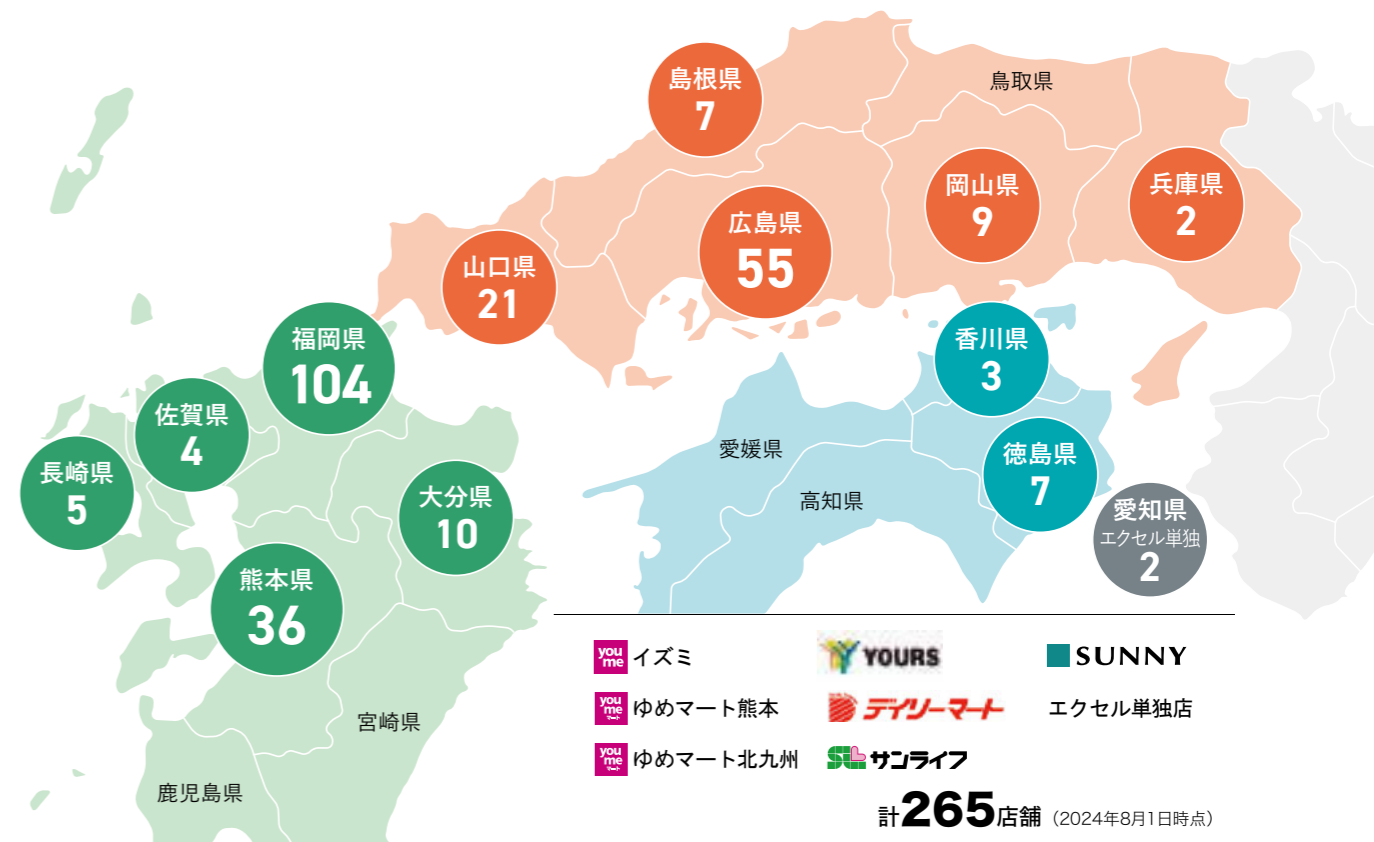
私たちが掲げる長期目標は「『暮らしやすく、人口が増えるまちづくり』への貢献」です。「ゆめタウン」などの店舗を便利で快適な商業施設であると同時に、地域コミュニティを活性化する「街の核」にしたいと考えています。出店エリアの行政とは包括連携協定を結び、雇用創出や産業振興、防災、子育て支援といった地域課題の解決に協働。市民団体や企業とも連携して、活気を呼び込む取り組みをしています。その一例が、2023年7月に開業した「ゆめタウン飯塚」です。約100の専門店を導入して最新トレンドを紹介しながら、地元産品も積極的に発信。子育て世代を中心に、幅広い世代の方にご来店いただき、連日にぎわいを創出しています。地域のみなさまの交流拠点となるよう、新しい取り組みとしてウォーキングコースなどを整備しました。

加えて小売業の使命として、ライフラインの維持にも努めています。災害発生時には店舗周辺エリアに支援物資を供給し、避難場所の提供もしています。2023年10月に広島県大竹市で発生した大規模断水に際しては、「ゆめタウン大竹」「ゆめマート西栄」の従業員が早朝から、駐車場への仮設トイレの設置に奔走。飲料水や軽食も急遽手

「夢」あふれる未来へ
これからも地域とお客さまの暮らしを支え続けます



株式会社イズミ 代表取締役社長 山西 泰明



配し、地域のみなさまの生活を支えました。

サステナビリティを推進するために、羅針盤になるのが「イズミの4つの夢」です。「お客さまに、より便利で快適な暮らしを」「地域に雇用を創出し、経済効果を」「テナント様やお取引先様にさらなる発展を」「社員に人間的成長とやりがいを」という想いを、イズミグループ全体で共有しています。2024年7月には、2014年の女性活躍推進プロジェクト発足時に設定した目標“イズミで管理職として働く人のうち、女性の割合を20%にする”を達成することができました。これはプロジェクト発足以来、仕事と家庭の両立支援や社員研修に取り組んできた成果だと考えています。これを弾みに人的資本経営を強化し、誰もが自

分らしく活躍できる環境の整備へ尽力していきます。また環境負荷を考慮して、リサイクルや省エネ・創エネを進めます。さらに収益向上による株主のみなさまへの還元も重要な経営方針の一つです。全てのステークホルダーのみなさまの「夢」に寄り添い、着実に歩みを進めてまいります。

「夢」あふれる未来に向けて、私たちが暮らす地域を、私たちの力でより元気に、もっと豊かにしていく——イズミグループはこれからも、「事業活動」と“社会課題の解決”の両立に挑み、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。今後とも変わらぬご理解・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お客さまが心地よく過ごせる空間を

お客さまの声を真摯に受け止め、潜在的なニーズを掘り起こしより安全で快適な空間づくりに取り組みます。



「ゆめテラス祇園」オープン 利便性の高い「憩いの場」に

約半世紀にわたりご愛顧いただいた「ゆめタウン祇園」を建て替え、2023年11月1日に「ゆめテラス祇園」がオープンしました。お買物の利便性と、「憩いの場」としての機能を両立し、日々の暮らしを支えます。地域とのつながりを重視し、長年親しまれてきた駐車場で盆踊り大会（左の写真）を再開するなど、コミュニティづくりに貢献していきます。

新店舗「ゆめマート新大村」誕生

2024年4月25日、長崎県2店舗目（エクセル除く）*となる「ゆめマート新大村」がオープンしました。西九州新幹線開業に伴う新大村駅周辺土地区画整理事業により、駅前に整備された複合施設「SAKURA MIRAI SHIN ÔMURA」内に立地。地域のみなさまの日々の暮らしを支える食品スーパーとして、新鮮な生鮮食品やバラエティーに富んだ惣菜などを品ぞろえしていきます。

*2024年8月1日時点の長崎県内店舗数は5店舗



広い駐車場を整備

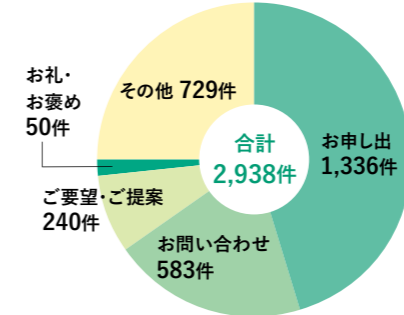


地元のフルーツが並ぶ青果コーナー

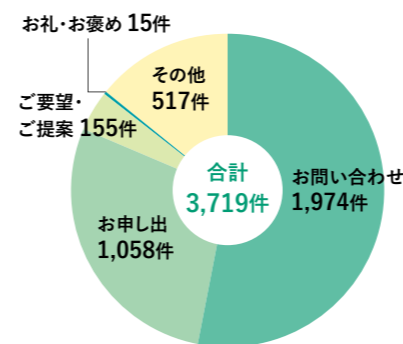
サービス向上に反映「お客さまの声」

品ぞろえの充実やサービスの改善に欠かせないのが「お客さまの声」です。本社「お客さま相談室」へのフリーダイヤルや、店頭「お客さまの声」用紙、ホームページ経由でご要望をお伺いしています。店舗と本社の担当者が全て確認し、対応を検討しています。

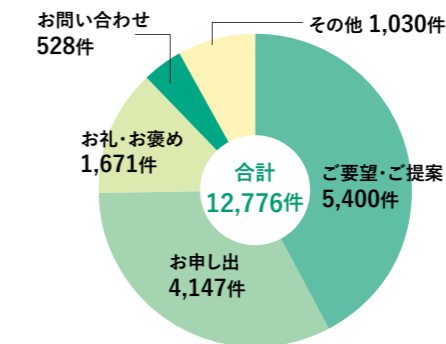
2023年度ホームページ年間実績



2023年度フリーダイヤル年間実績



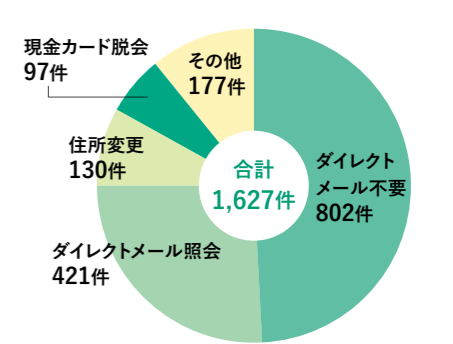
2023年度店舗での「お客さまの声」年間実績



個人情報の取り扱いルールを全社で共有

プライバシーポリシーに沿った対応として、鍵付きロッカーや管理台帳などの使用をルール化して全従業員で共有しています。対象になるのは、お客さまのご住所やお名前、電話番号など。個人情報の流出事故が多発する中、大切な個人情報を慎重かつ適切に取り扱うよう、全員で徹底しています。

2023年度個人情報専用ダイヤル年間実績



品質管理を店舗と本社で推進

「安全で安心な食」を守るため、店舗と本社の両方で品質管理を推進しています。店舗では表示などの勉強会を開催。また「食品品質チェッカー」が毎日午前11時と午後3時に売場をチェックし、商品の鮮度や産地、日付などを確認しています。さらに本社の品質管理検査室で検査を実施し、インストア商品の品質保証に取り組んでいます。



本社の品質管理検査室



お客さまが心地よく過ごせる空間を

商品のデリバリーシステムが充実

「Wolt」30分程度で商品配達
 2023年4月、「ゆめタウンサンモール」「ユアーズ楠木店」に導入。食料品や日用品など約6,000~7,000品目を、30分程度で配達するサービスが好評です。



Wolt配達担当者(右)



ゆめデリバリーの注文商品を丁寧に箱詰め

「ゆめデリバリー」ネットスーパー
 2021年より実施。店舗からご自宅に商品をお届けするほか、店外ロッカーや駐車場でのピックアップも可能です。

惣菜「zehi」社外との連携進む

2022年に誕生した、こだわり惣菜の自社製造ブランド「zehi」。社外との連携を進め、地域貢献にも努めています。売上の一部は、子ども食堂の支援団体に寄付。地元テレビ局と共催した小学生向けの食育教室では、惣菜工場を見学していただきました。カルビー株式会社とのコラボで開発したポテトチップスも、2023年11月3日の創業記念商品として人気を集めました。



ポテトチップス「泉唐匠とりから揚げ だし塩味」



子ども食堂の支援団体に寄付



お弁当づくりで食育教育

「SHUCA」メンズライン発売

2023年9月28日、イズミオリジナルの衣料品ブランド「SHUCA」に、メンズ向けアイテムが登場しました。30~40代の男性をメインターゲットに、トップスやアウター、ボトムなどを発売。トレンド感と軽い着心地、着回しやすさを重視した各種アイテムを、ゆめタウン25店舗(2024年5月末時点)で取り扱っています。



カジュアルウェアを提案

広げよう！健康維持・増進の輪

健康志向の惣菜を多数販売

「zehi balance」はおいしさだけでなく、健康にも配慮した惣菜シリーズです。塩分や糖質を控えた商品や、食物繊維が豊富な商品などを順次発売しています。例えば、「やさしい米粉パン」は、米粉を使うことで、カロリー減・ビタミンB1・E、リン、亜鉛など多くの栄養素を摂れるパンに仕上げました。また、独自の粉比率で食感にもこだわっています。「1/3日分野菜の中華丼」は、1食で一日あたりに必要な野菜の1/3が摂取できる、おいさと栄養を兼ね備えた中華丼です。

※2024年6月現在の商品情報



「やさしい米粉パン」



「1/3日分野菜の中華丼」

ウォーキングコースや公園を整備

「ゆめタウン飯塚」では、健康的なライフスタイルをサポートする取り組みとして、館内の階段や売場にウォーキングコースを整備。壁面を地元イラストレーターの絵で飾り、天候に関係なく楽しく運動できるように工夫しました。屋外には人工芝公園を設置。自然の中で太陽光や風を感じて、ゆっくりと憩いの時間を過ごせる空間です。



日当たりのよい人工芝公園



階段を使ったウォーキングコース

宇部の店舗に子育て支援センター開設

2023年5月25日、宇部市との包括的連携協定に基づき、「ゆめタウン宇部」に「子育て支援センターゆめタウンうべ」がオープンしました。子育て世代の情報交換・育児相談の場所として活用されています。主な対象者は、3歳未満のお子さまと保護者のみなさま。お買物のついでに、気軽に立ち寄っていただいています。



おもちゃで遊べる広々スペース



絵本なども備えています



篠崎宇部市長や地域のみなさまが式典に参加

お客さまの声にお応えしました

「ゆめタウン別府」の授乳室について、お客さまから「授乳する時に赤ちゃんを横抱きすると、イスの背もたれに赤ちゃんの頭と足が当たってしまいます。形状を変更したタイプのイスに替えてもらえたら大変助かります」という声が届きました。そこで2室ある授乳室のうち1室のイスを、形状を変更したタイプに替えた上で、配置も工夫しました。



改善前の状態



イスと配置を変更

自動チャット機能を導入

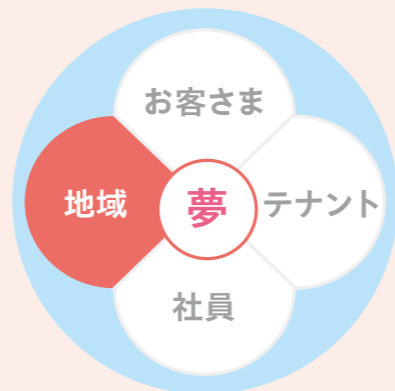
「ゆめカード」のホームページに、24時間365日、自動で対応する「チャットボット」を導入しました。よくある質問の場合、選択肢を選んでいくと適切な回答が表示されます。またメッセージ欄に質問を入力すれば、会話形式での問い合わせも可能です。今後もIT技術を活用し、利便性向上につなげていきます。



「チャットボット」の問い合わせ画面

身近な地域に 元気と「にぎわい」を

店舗を地域コミュニティの核として充実させ
経済活性化や災害時のライフライン維持を図ります。



仕事と競技を両立し奮闘 「イズミメイプルレッズ」

トップリーグで活躍している女子ハンドボールチーム「イズミメイプルレッズ」。選手たちはイズミグループの企業に在籍し、仕事と競技に全力投球しています。社会貢献にも力を入れ、2024年2月3日には北國銀行(石川県)の選手たちに、能登半島地震の被災地応援横断幕を贈呈(左の写真)。会場で義援金も募りました。

スポンサードゲームでカーブを応援

広島東洋カーブのスポンサーとして、イズミはマツダ スタジアムに「youme」のロゴを掲出しています。2023年5月5日に開催した「ゆめタウンスポンサードゲーム」では、満員の球場でチームを応援しました。11月23日の「カーブファン感謝デー」では、抽選で選ばれたお客さまが選手と交流する「プレミアムトークショー」などの企画を行いました。



始球式でお子さまが力投



「プレミアムトークショー」の様子

サンフレッチェ広島レジーナも支援

2024年2月10日、サンフレッチェ広島の新ホームスタジアム「エディオンピースウイング広島」のこけら落としのプレシーズンマッチで、ゆめタウンスポンサードゲームを開催しました。特設ブースでゆめアプリ会員さまにオリジナルステッカーをプレゼントし、ご好評をいただきました。

2024年3月3日より、女子チームのサンフレッチェ広島レジーナとも新たにユニフォームパートナー契約を締結。選手たちは袖に「youme」のロゴが入ったユニフォームを着て、熱く戦っています。



紫とピンクに染まったスタジアム



袖に「youme」のロゴが光る

広島ドラゴンフライズのスポンサーに

イズミはBリーグ・広島ドラゴンフライズをスポンサーとして支援しています。2023年8月27日には「ゆめタウン福山」で選手トークショーを開催。お客さまが選手との撮影会で盛り上がりました。2024年1月21日にはスポンサードゲームが行われ、会場に特設ブースを開設。ゆめアプリ会員様先着200名へのステッカープレゼントが好評でした。



スポンサーとして「youme」のロゴを掲示

泉美術館で写真展 「広島 memory」開催

2023年6月17日～8月27日に泉美術館で、写真展「広島 memory」が開催されました。貴重な写真の数々により、戦前、戦後の広島を紹介。8月6日の原爆投下による甚大な被害状況を、国内外の資料で検証する企画となりました。会場を訪れたみなさんは、真剣な眼差しで展示に見入っていました。



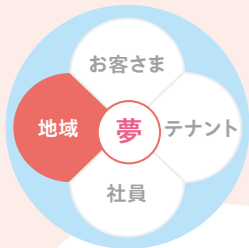
幅広い世代の方が来館されました

ハンドボール 親子体験講座を開催

2023年11月18日、イズミグループのイズミテクノが指定管理者を務める、こさかなくんスポーツパークびんご(広島県立びんご運動公園)で、「ハンドボール親子体験講座」を開催。「イズミメイプルレッズ」の選手から指導を受け、お父さんたちは元気にパス練習などを行いました。



笑顔で記念撮影



身近な地域に元気と「にぎわい」を

広島修道大学と包括的連携協定締結

2023年9月29日、広島修道大学とイズミは「包括的連携協力に関する協定書」をイズミ本社で締結しました。地域社会の発展に貢献する人材の育成と、地域社会の持続的な発展に寄与するため、相互に連携を進めていきます。

具体的な取り組みとしては、「専門性の高い独自のインターンシップ」「MZ世代(ミレニアル&Z世代)へ向けた共同商品開発」「大学の研究活動にリンクした商品開発」などを検討しています。



広島修道大学矢野泉学長(左から3人目)や当社山西社長が調印式に参加

地域活性化や防災に関する協定締結

産業振興や子育て支援、健康増進、環境保全といった地域課題の解決に向け、出店地域の自治体との連携を進めています。風水害や地震などの災害に備え、物資協定や避難施設の協定も締結。万一の際には、食料品や日用品などを迅速に供給するほか、駐車場などを地域住民のみなさんに開放する体制を整えています。

浜田市と地域活性化包括連携協定を締結 (2024年2月2日)



右が浜田市の久保田章市市長

別府市と包括連携協定を締結 (2024年2月9日)



左が別府市の長野恭慈市長

行政との協定一覧 (2024年6月30日時点)

包括協定		災害時における物資協定		避難施設の協定	
締結年	県・市・大学名	締結年	県・市・町・施設名	締結年	県・市・町名
2011年	広島県	2023年	飯塚市(福岡県)	2011年	中津市(大分県)
	熊本県		香川県		藍住町(徳島県)
2015年	廿日市市(広島県)	2005年	福岡県	2012年	呉市(広島県)
2016年	山口県		広島県		別府市(大分県)
	周南市(山口県)		佐賀県		大竹市(広島県)
2017年	広島大学(広島県)	2007年	熊本県	2015年	廿日市市(広島県)
	宗像市(福岡県)		山口県	2017年	島根県
2021年	岩国市(山口県)		長崎県	2018年	三豊市(香川県)
2022年	高梁市(岡山県)		菊陽町(熊本県)	2018年	赤磐市(岡山県)
	高松市(香川県)		合志市(熊本県)	2019年	下松市(山口県)
	安芸高田市(広島県)		高松市(香川県)	2019年	出雲市(島根県)
	藍住町(徳島県)	2008年	防府市(山口県)	2020年	大内連合自治体(山口県)
	菊陽町(熊本県)		瀬戸内市(岡山県)	2021年	益田市(島根県)
	武雄市(佐賀県)		丸亀市(香川県)	2021年	東広島市(広島県)
	井原市(岡山県)	2009年	宗像市(福岡県)	2022年	遠賀町(福岡県)
	行橋市(福岡県)		大牟田市(福岡県)	2023年	香川県※6
	大川市(福岡県)	2010年	熊本市(熊本県)		広島市(広島県)※7
	東広島市(広島県)	2011年	大川市(福岡県)	2023年	江津市(島根県)
	柳井市(山口県)		藍住町(徳島県)	2024年	真庭市(岡山県)
	八女市(福岡県)		遠賀町(福岡県)		
	防府市(山口県)	2012年	行橋市(福岡県)※3		
	長崎市(長崎県)		広島市(広島県)		
	三豊市(香川県)	2013年	井原市(岡山県)		
	江津市(島根県)		八女市(福岡県)		
2023年	山口市(山口県)		佐賀市(佐賀県)		

※1ゆめマート熊本含む ※2ゆめタウン・ゆめマート4店舗、ゆめマート北九州4店舗 ※3避難施設含む ※4窓口は玉名市 ※5LECTのみ対象 ※6武力攻撃事態等/ゆめタウン高松のみ対象 ※7車中避難/ゆめタウン広島、LECT

大竹市の断水 飲料水やトイレを提供

2023年10月1日未明に、広島県大竹市で水道管の老朽化による大規模断水が発生しました。「ゆめタウン大竹」と「ゆめマート西栄」では早朝から対応に着手し、仮設トイレを駐車場に設置。飲料水も急遽手配して店頭で並べました。店内では調理ができなかったため、グループ会社の惣菜工場がおむすびや焼きうどんなどを大量に供給。お客さまからは「自宅で水が使えない中、調理せずに食べられるものが助かる」と喜ばれました。



「ゆめマート西栄」の仮設トイレ



480ケースの飲料水を手配

ご当地デザイン「ゆめか」を発行

「飯塚ゆめか」 2023年7月29日の「ゆめタウン飯塚」オープンを記念し、「飯塚ゆめか」を発行しています。市民の夏祭りとして親しまれている飯塚山笠をモチーフに、5つの地区のカラーを使用。勇壮な雰囲気を表現しました。



山笠をデザインした「飯塚ゆめか」

「北九州市制60周年ゆめか」

イズミとグループ会社のゆめマート北九州は、2023年11月10日に「北九州市制60周年ゆめか」を市内直営14店舗で発行しました。3,000枚を発行し、1枚につき100円を北九州市の子育て事業に寄付しました。



「北九州市制60周年ゆめか」

「ゆめシティ」で脱炭素イベント開催

2023年7月22日、「ゆめシティ」で山口県主催の「2050ゼロカーボン・チャレンジキックオフセレモニー」が開催されました。ステージに山口県の村岡嗣政知事と下関市の前田晋太郎市長が登場し、行政の取り組みを紹介。「ゆめシティ」支配人からも店舗のSDGs活動を発表しました。その他、省エネ製品の展示、「ぶちエコアプリ」を利用したスタンプラリーなども盛況でした。



山口県の村岡知事(右)、下関市の前田市長



LEDランタンのワークショップ

地震被災地へ義援金

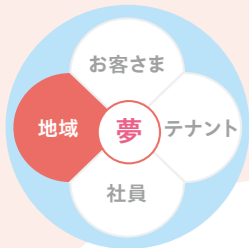
イズミグループでは地震の被災地域を支援するため、全店舗で義援金募金を行い、日本赤十字社を通じて被災地へお届けしました。

2023トルコ・シリア地震義援金募金 (2023年2月11日～26日/192店舗) **3,668,806円**

令和6年能登半島地震義援金募金 (2024年1月4日～2月29日/193店舗) **20,470,005円**



店頭で設置した募金箱



身近な地域に元気と「にぎわい」を

安芸高田市と多方面で連携

「ゆめタウン吉田」で「毛利元就フェス」

2023年9月17日に安芸高田市吉田町で、戦国武将・毛利元就の郡山城入城500年を祝う「毛利元就フェス2023」が開催されました。会場の「ゆめタウン吉田」は、音楽団の演奏やファッションショーなどで盛り上がりました。



「毛利元就フェス2023」の舞台の様子

「あきたかた焼き」イズミ全店で販売

安芸高田市の新名物「あきたかた焼き」は、鶏肉入りのお好み焼き。伝統芸能の神楽にちなんだ5色の食材、青のり(青)、紅生姜(赤)、卵(黄)、餅(白)、ソース(黒)が使われています。安芸高田市長からイズミは「あきたかた焼き」提供店として認証をいただき、2023年12月7日から全店で販売しています。



鶏せせり入りの「あきたかた焼き」



安芸高田市での試食会

「ゆめタウン八代」総踊りで優勝

2023年8月5日、4年ぶりに開催された「第56回八代くま川祭り」の総踊りに、「ゆめタウン八代チーム」が出場しました。従業員約60人が、息の合った踊りを披露。参加した全37団体の中で、見事、第一位の「くま川祭り大賞」を受賞しました。



「八代音頭」を踊りました



チームワーク抜群の出場者

香川県フードドライブウィークに参加

2024年1月15日～26日、「香川県フードドライブウィーク」に「ゆめタウン高松」が参加しました。この企画は香川県が行う「県庁フードドライブ」の一環で、県内の小売事業者が協力。家庭で未利用の食品を参加企業で受け付け、全体で合計約1,254kgが集まりました。



「ゆめタウン高松」の特設コーナー

野菜摂取キャンペーン

「野菜の日(8月31日)」にちなんで、2023年8月末に熊本県と味の素株式会社、イズミグループのゆめマート熊本が連携して「野菜摂取キャンペーン」を行いました。味の素が開発した「ラブベジ」メニューの発表と試食会を、「ゆめマート清水」で実施。トマトを入れた麻婆丼などのレシピを全店で配布し、「熊本県産野菜を食べましょう」と呼びかけました。



ナスやトマトを使った料理を提案



味の素、熊本県、ゆめマート熊本が共同でレシピを発表

海ごみ回収へ子どものアイデアを展示

2023年11月1日～30日、「ゆめタウン江田島」で「えたじま未来の海づくり展」が開催されました。主催は、環境保護に取り組む一般社団法人フッド。会場には子どもたちが提案した、海ごみを回収する装置のアイデア258点が展示されました。環境保護活動を紹介するパネル展示などもあり、多くのお客さまでにぎわいました。



優れたアイデアを提案したお子さまを表彰しました

身近な海の現状や環境保護活動を紹介するパネル展示

フリーマーケットでリユース推進

2023年9月18日、「ゆめタウンシティモール」で荒尾市主催の「こどもフリーマーケット&再生可能エネルギーを活用した工作教室」が開催されました。フリーマーケットは子どもたちが主役になり、おもちゃや絵本などを販売。工作教室は、省エネを考えるきっかけになりました。



フリーマーケットや工作教室を実施

「ひろしまフードフェスティバル」に出店

2023年10月28日・29日、広島県の魅力を紹介する「ひろしまフードフェスティバル」に、イズミ・フード・サービスの「広島お好み一番地」が出店しました。看板メニューは容器からあふれるほどの「あふれ盛り焼きそば」。「よいしょー!」のかけ声で1回、2回、3回と山盛りにするパフォーマンスで、イベントを盛り上げました。



元気なかけ声で会場を盛り上げました

徳島の行事食「ぼうぜ姿寿司」を販売

徳島県西部地域の秋祭りに欠かせない「ぼうぜ姿寿司」。他社スーパーが販売を取り止める中、イズミグループのデイリーマートは「伝統ある食文化を大切にしたい」と通年で販売を継続しています。2023年は4年ぶりに各集落で秋祭りが行われ、お客さまに「ぼうぜ姿寿司」を喜んでいただきました。



地元の魚で作る「ぼうぜ姿寿司」

広げよう! 健康維持・増進の輪

「下松市福祉健康まつり」開催

2023年12月3日、下松市主催の「下松市福祉健康まつり」が開催されました。会場は下松タウンセンター「キラル」で、核テナントの「ゆめタウン下松」も参加しました。ステージでは保育園児のダンスや、健康ウォーキング大会の出発式などが行われました。地元の特産品が当たる抽選会や、骨密度測定などができる「健康チェックコーナー」もあり、さまざまな企画を通じて健康づくりを進める機会になりました。



幅広い年代の来場者でにぎわいました



身近な地域に元気と「にぎわい」を

G7広島サミットを盛り上げ

2023年5月19日～21日に開催されたG7広島サミットを盛り上げるため、さまざまな取り組みを行いました。主な企画としては、店内でG7のパネル展示を行ったほか、イズミメイプルレッズの選手たちは、広島市に協力して広島平和記念公園の清掃活動に参加しました。Instagramでは各国の伝統料理レシピを紹介。イギリスのスコーン、フランスのクロックムッシュ、イタリアのアクアパッツァなどに多数の「いいね!」が集まりました。また各店舗で広島フェアを開催し、広島の魅力発信にも努めました。

そのほかの主な取り組み

- G7ゆめか発行 (限定3,500枚)
- G7広島サミットロゴ入り名刺作成
- 広島商工会議所と連携し清掃活動
- スポGOMI×ユニクロ・GU (2店舗)
- 広島サミット県民会議ブースでパネル展示 (4店舗)



清掃活動に参加したイズミメイプルレッズのみなさん



Instagramで各国のレシピ紹介

「ユーハイム似島歓迎交流センター」管理者に

イズミテクノは、2024年4月にオープンした「ユーハイム似島歓迎交流センター」(旧広島市似島臨海少年自然の家)の指定管理者を務めています。オープンに先立ち、2023年10月31日にイズミの山西泰明社長やイズミテクノの本田雅彦社長が広島市の松井一實市長を表敬訪問しました。本田社長は「しっかりと管理を行い、にぎわいの創出や地域活性化に貢献していきます」とあいさつ。松井市長からは「市としても重要な施設。一緒に力を入れてやっていきましょう」との言葉をいただきました。



前列左から山西社長、松井市長。後列中央が本田社長。



木々に囲まれたコテージ

社会課題解決を図る高校生にイズミの取り組みを紹介

「サステナブル・ブランド国際会議」は、持続可能性をテーマに企業や自治体が議論する会議です。その全国大会に出場する高校生を選出するため、「第4回SB Student Ambassador 中国ブロック大会」が2023年10月28日に広島大学で開催されました。広島・岡山・山口の3県から28校181人が参加し、業界×SDGsの観点で今後の社会に対してどのようなことができるかアイデアを発表。イズミなど地元企業4社も会場で講演を行い、各業界について説明しました。講演では、「消費者や地域とともに取り組む視点を大切にほしい」と思いを語りました。



説明を行うサステナビリティ推進課の松永課長

高校生が育てた豚肉・牛肉を販売

地産地消の取り組みの一環として、各地の高校生が育てた牛肉や豚肉を販売しました。

香川県立農業経営高等学校

2023年10月7日、「ゆめタウン高松」で「農経ポーク」を地域貢献の取り組みとして高校生と一緒に販売しました。



熊本県立熊本農業高等学校

2023年12月9日、「シンデレラネオポーク」を「ゆめタウン大江」で販売。お客さまに飼育方法を紹介しました。



香川県立笠田高等学校

2023年12月16日、「ゆめタウン三豊」で畜産部の生徒が、肉質自慢の豚肉を試食販売しました。



広島県立庄原実業高等学校

2023年12月17日、「LECT」でA5ランク「広島和牛」を販売。同校は地元製造のTMR(完全混合飼料)を使用しています。



兵庫県立播磨農業高等学校

2024年1月25日～28日、「ハリマ夢ポーク」を「ゆめタウン姫路」で販売。27日には試食販売を行いました。



熊本県立南後高等学校

2024年2月10日・11日、「第7回和牛甲子園」に出品したくまもと黒毛和牛「和牛」を、県内ゆめタウン・ゆめタウン6店舗で販売しました。



広島県立西条農業高等学校

2024年2月10日・11日、「第7回和牛甲子園」に出品した黒毛和牛「ひろしま牛」を「LECT」「ゆめタウン西条」で販売しました。



熊本県立熊本農業高等学校のみなさん



香川県立農業経営高等学校の販売コーナー



広島県立西条農業高等学校のPOP

地元高校生と商品開発

イズミグループのゆめタウン熊本は、地元の尚綱(しょうけい)高等学校の生徒さんと商品開発のコラボ企画を行いました。惣菜担当の従業員が「フードデザイン」の授業で講義を行い、生徒さんたちはレシピ作り着手。62もの提案の中から、先生方や従業員が試食で選んだ2品を商品化しました。2023年11月に5店舗で期間限定販売し、ご好評をいただきました。



「彩りケバフサンド」

カラフルな「黒米使用おにぎらず」

安田女子大学と「SDGs交流会」

2023年11月14日、イズミ本社で安田女子大学の学生のみなさんと「SDGs交流会」を実施しました。イズミが社内外で取り組む環境保全や社会貢献活動について紹介した後、イズミ史料館を見学。さらに活発な質疑応答を通じて、さまざまな視点から意見交換を行いました。



イズミのSDGs活動を説明

「ゆめタウン呉」でSDGs講義を実施

2023年7月28日、呉市立呉高等学校の生徒17人が「ゆめタウン呉」を訪問しました。支配人が講師を務め、イズミの幅広いSDGs活動を呉市および「ゆめタウン呉」での事例を中心に紹介。その後、店舗での品出しや商品整理などの職場体験を通して、働くことの楽しさを実感してもらった機会になりました。



真剣に受講する高校生のみなさん

第一生命保険による「健康増進イベント」

SDGsを意欲的に推進する第一生命保険株式会社のみなさんが、「ゆめテラス祇園」や「ゆめタウン東広島」などで週末に「健康増進イベント」を開催しました。握力や血管年齢などが無料で測定できる機会とあって、お客さまには大好評。自分の体の状態を知り、日々の生活習慣を振り返るきっかけとして、ご活用いただきました。



カウンターで血管年齢などを測定

お取引先様と ともに一層の発展を

お取引先様やテナント様と力を合わせて
共存共栄でさらなる成長を目指していきます。



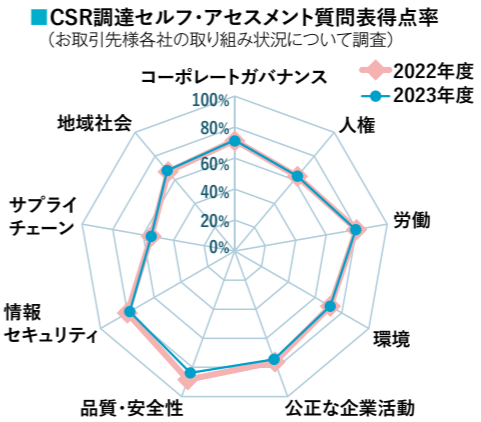
ロールプレイング全社大会を開催

2023年10月12日、接客技術の向上を目指して、ゆめタウン専門店ロールプレイング全社大会「ゆめ1(ワン)グランプリ」をイズミ本社で開催しました。九州・西部・東部の各地区予選で選出された25人が参加。4年ぶりに開催された大会とあって、例年以上の緊張感が漂う中、心のこもった接客を実演しました。



「イズミ会」総会でアンケート実施

お取引先様とイズミが共努共栄を図るため、1975年に発足したのが「イズミ会」です。2023年5月の総会では、イズミから経営計画や「持続可能な調達方針」を説明し、コミュニケーションを図りました。また、公正な取引を進めるため、「CSR調達セルフ・アセスメント質問表」へのご回答をお願いし、結果は右図の通りです。



山西社長が経営計画を発表



イズミの調達方針をお取引先様と共有

本社に投書箱を設置し 公正な取引を推進

より一層の公正な取引を目指して、イズミ本社に投書箱を設置しています。お取引先様に率直なご意見をいただき、商談やお取引はもちろん、従業員のマナー、店舗運営などの改善に役立てています。



お取引先様用の投書箱

チャリティ募金で視覚障がい者支援

視覚障がい者の方々を支援する恒例行事「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」。中国放送や九州朝日放送、西日本放送と共同で、2023年12月24日・25日に各地の「ゆめタウン」で公開録音を実施しました。2023年11月～2024年1月の期間に集まった募金は、音が出る信号機の設置などに役立てられています。



公開録音の様子

FC形式の雑貨店・衣料品店が好評

「プラグス マーケット」

「地域を元気に」をテーマにしたハンズの新業態が「プラグス マーケット」です。2023年11月23日、「LECT」にイズミのFC2号店がオープンしました。特に力を入れているのは、地域のいいものを紹介する「伝え場」コーナー。バイヤーがセレクトした、広島発のこだわり商品がずらりと並んでいます。



地元の魅力的な商品を紹介



1号店は「ゆめタウン下松」で営業中

「studio CLIP」

株式会社アダストリアとの「業務提携及び商品売買等に関する基本契約」に基づき、同社の「studio CLIP」をFC形式で運営しています。第1号店は2023年、「ゆめタウン行橋」にオープン。日々の生活に寄り添う衣類やキッチンウェアが評判を呼んでいます。



ナチュラルな雑貨や衣類が並ぶ

多様な社員が活躍できる環境を

多様なバックグラウンドを持つ従業員が、自分らしく柔軟に働き方を選択し、力を発揮できる職場づくりをします。



社員一人ひとりに学びの機会を

「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」という経営理念を実現するには、社員一人ひとりが自分らしく力を発揮しながら、より豊かな人間性を育てていくことが重要です。そのためにイズミでは、新入社員から管理職まで、階層別にさまざまな学びの機会を提供しています。

「人的資本経営」を6分野で推進

人材を「資本」としてとらえ、その価値を最大限に引き出していくことで中長期的な企業価値向上につなげるのが「人的資本経営」です。イズミは今後、地域社会の活性化を牽引する中心的な存在へと進化するために「人的資本経営」を推進していきます。

これからイズミの目指す将来像を実現していく上で、人的資源における6つの主要課題を明確化。具体的な取り組み内容を策定し、課題を確実に解決していくために数値目標も設定しました。教育などにより成長機会を提供するほか、誰もが働きがいを感じられ、多様な人材が活躍できる環境の整備などに取り組んでいきます。

人材育成への取り組み

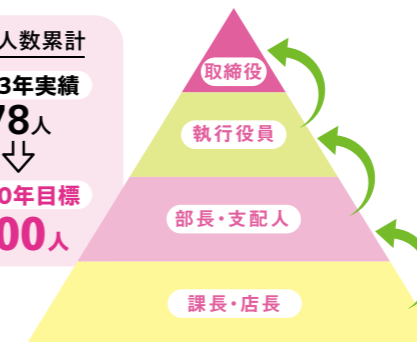
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ■次世代リーダーの育成および幅広い知見を有する社員の育成を目的として、選抜研修を実施する。 ■実務スキル習得および向上に向けて、階層別研修を実施する。 ■自ら学ぶ自立した人材を育成するために、自己啓発を支援する。
従業員エンゲージメントの向上	<ul style="list-style-type: none"> ■働き方改革をより一層推進する。 ■エンゲージメントサーベイを活用し、その結果から見える課題を解決する。 ■双方向のコミュニケーションを重視し、対話を促進する。
人材確保と定着化	<ul style="list-style-type: none"> ■年々困難になっている人材の確保に向けて、採用方法を多様化する。 ■入社4年目までの若年層を中心に、定着化を図る。
ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン	<ul style="list-style-type: none"> ■女性が活躍できる環境を整備し、社内全体の意識を醸成する。 ■障がい者や高齢者など多様な人材が活躍できる場を提供する。 ■少子高齢化におけるビジネスケアラー増加に対応した環境づくり。
健康経営の推進	従業員健康は地域の健康につながるの考えのもと、従業員の健康維持や増進および未病への取り組みを実施する。
コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ■法令遵守意識の向上。 ■安心して相談できる窓口の設置。

「イズミ大学」でリーダーを育成

次世代の経営人材を育成するため、「イズミ大学」を開設しています。社内から候補者を選抜し、幅広く知見を深めるために社内研修・社外講座を実施。2年間のプログラムで、リーダーシップや経営戦略の思考法など、各階層に必要な素養を磨いています。

参加人数累計
2023年実績
78人
↓
2030年目標
100人

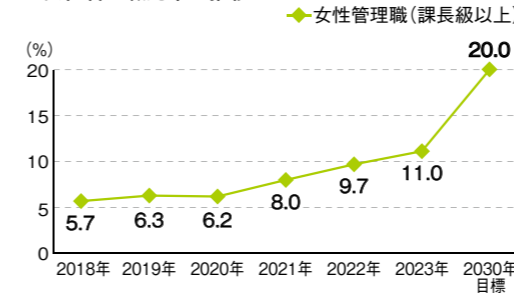
イズミ大学 育成イメージ



女性管理職比率が着実に上昇

2014年にスタートした「ゆめCanプロジェクト」(女性活躍推進プロジェクト)により、店長や次長になる女性社員は着実に増加しています。キャリアアップ支援などの地道な取り組みが評価され、2017年には女性活躍推進優秀企業認定「えるぼし」の最高位3段階目、を取得しています。今後も引き続き、多様なバックグラウンドを持つ社員一人ひとりが活躍できる環境を、積極的に作っていきます。

女性管理職比率の推移



最新の小売店を視察アメリカ研修

2023年は6月と10月に、4年ぶりのアメリカ現地視察研修を実施しました。計46人がシアトルとロサンゼルスで商業施設を訪問し、最新の消費トレンドや販売メソッドを吸収。今後の店舗運営に生かしていきます。





多様な社員が活躍できる環境を

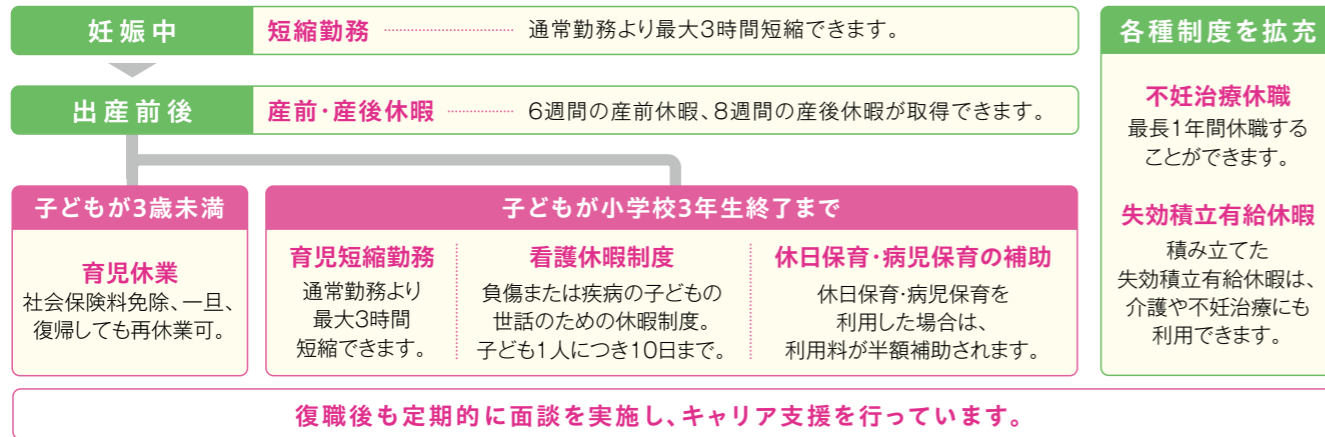
子育てや介護と仕事の両立を支援

1995年から「ポジティブアクション」に取り組み、子育てや介護と仕事を両立できる環境整備に取り組んできました。年々制度を拡充し、時短勤務は小学3年生終了時まで取得できるようになりました。こうした制度の周知も重要と考え、「パパママ応援BOOK」を社内ポータルサイトで公開。さらに企業主導型保育園を「ゆめタウン光の森」「ゆめタウン廿日市」に開設しています。

社員向けポータルサイトで閲覧できる「パパママ応援BOOK」



育児休業制度の充実を図っています



男性育休の取得者が増加

2022年より育児・介護休業法の「産後パパ育休」が施行されました。イズミでは社内制度の「出産立会い休暇」「夫婦で子育て休暇」と組み合わせるケースが増加。「仕事も子育ても、男女共同参画で」という機運が高まっています。



出産立会い休暇 配偶者の出産予定日を含む前後2日間特別休暇取得可能。	夫婦で子育て休暇 配偶者が出産した際、子どもの出生後8週間以内に、連続した3日間の特別休暇取得。
--	--

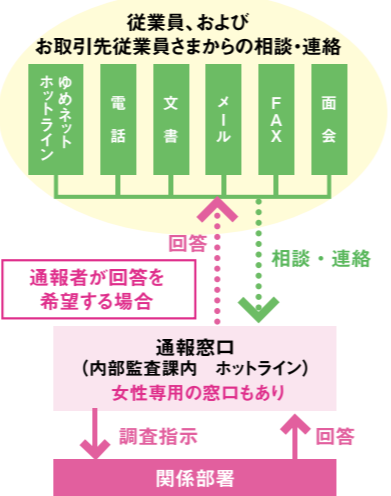
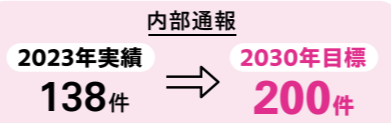
働きがいを重視した定年再雇用制度

「定年再雇用制度」の導入により、本人が希望する場合、満60歳に達した正社員・パートナー社員は65歳まで再雇用されます。ベテラン社員の意欲を後押しすることも重視し、パートナー社員の時給据え置き制度や、評価に応じた昇給制度などの制度も整備しています。

- 1 本人が希望すれば、誰でも安心して65歳まで勤務することができます。
- 2 定年前までのみなさんの頑張りを生かすため、パートナー社員の時給は据え置きます。
- 3 定年後も評価に応じた昇給を行うので、意欲が高く保たれます！(正社員・パートナー社員共通)

相談窓口「イズミホットライン」

風通しのよい組織を目指し、「イズミホットライン」を設置。従業員やお取引先従業員さまの相談を受け付け、適切な対応を進めています。



各種制度・研修で若手社員を支援

社会のスタートラインに立ったばかりの若手社員に対して、経済的・心理的負担を軽減し、安心して働ける環境を作るため、各種手当制度や研修を導入しています。

ふるさと帰省旅費補助制度

若手社員のリフレッシュのために、親元などに帰省する際の旅費を最大10万円まで補助する制度です。

若手社員研修

入社～4年目までの若手層を中心に、定着化を図るため、若手社員研修を実施し、絆づくりに努めています。

奨学金返済支援制度

奨学金の返済に苦しむ社会人が増えていることから創設した制度です。対象は、在学中に日本学生支援機構の奨学金や地方公共団体の奨学金を受け取った正社員。勤続3年目、5年目、7年目に、返済中の残高に対して最大20万円ずつ(総額最大60万円)を援助します。

陳列・技術コンテストを実施

2023年10月に「陳列・技術コンテスト」を実施しました。商品の魅力を際立たせるため工夫を凝らした陳列について、各部門で審査を実施。優秀作品は社内報でも紹介し、全社でレベルアップを図る機会となりました。



ハロウィーンの売場提案(青果)



魚屋さん風の元気な演出(鮮魚)



しゃぶしゃぶ肉を美しく盛り付け(精肉)



バッグなどをにぎやかに陳列(服飾)

パートナー社員が事例発表

パートナー社員による事例発表会「ゆめ感動物語」は、各自が実践した事例を自分の言葉で発表する場です。2023年11月6日の第52回大会では、8人が店舗を代表して、仲間と力を尽くした活動を報告。優秀な取り組みは、店舗運営に活かされています。



第52回大会参加者のみなさん

広げよう! 健康維持・増進の輪

地域の健康を守る「健康経営」の推進

イズミで働く社員の95%以上が店舗周辺に住んでいることから、「社員の健康を守ることは地域の健康を守ること」という考え方のもと、「健康経営」を推進しています。2022年にはヘルスケアアプリ「HELPO」を導入。チャット機能で気軽に相談ができるほか、オンライン診療機能も備えています。また健康診断の結果を分析し、自社基準超過者を対象に受診勧奨を行い、再受診率は96.8%となっています。この取り組みは重症レベルの有所見者数に改善が見られると産業界の方から評価をいただいています。

従業員 従業員に寄り添い、健康づくりを支援し、働き甲斐のある職場を目指します。

お客さま 商品・サービスを通じてお客さまの健康と福祉をサポートします。

地域のみなさま 地域の健康寿命を延ばし、youme(夢)ある社会に貢献します。

2024 youme eCO action

日々の業務の中で、全従業員が商品やサービスを通じた環境負荷低減活動を推進中です。豊かな環境を次世代につなぐため、地道なエコ・アクションをさらに加速していきます。

脱炭素社会を目標に 省エネ・創エネでCO₂削減

冷蔵・冷凍ケースを集中管理

冷蔵・冷凍ショーケースの庫内を適温に保ちつつ省エネを進めるため、全店に「インバーターシステム」を導入し、集中管理をしています。



売場の省エネ機器



エネルギー効率が高い冷蔵・冷凍ショーケース

冷気漏れ防止カバーを設置

カット野菜やチルド商品などの冷蔵ショーケースには、冷気漏れ防止カバーを設置。毎日閉店時にカバーを下ろし、冷気を逃さないようにしています。また節電効果を高めるため、陳列や売場整理の際に、冷気の吹き出し口をこまめに清掃。省エネにつながるアクションを従業員一人ひとりが理解し、日々の業務の中で実践しています。



清潔に保たれた冷気の吹き出し口



閉店時に冷気漏れ防止カバーを下ろす

EVの充電スポット増設

地球温暖化防止の観点から、EV（電気自動車）の利用者が増えています。お客さまがお買物をしている間に充電できるよう、駐車場へのEV充電スポット設置を推進。現在、「ゆめタウン光の森」「ゆめタウン高松」「ゆめタウン廿日市」「ゆめタウン広島」「LECT」などに整備しています。



20店舗に設置

「LECT」のEV充電スポット

レジ袋の素材を変更

全店のレジ袋を、植物由来のポリエチレン「バイオマスプラスチック」25%配合タイプに切り替え、石油資源の使用量を削減に努めています。「ゆめタウン飯塚」では、再生紙を使ったレジ袋も使用中です。



バイオマスプラスチックのマーク

CO₂排出量年間削減見込み 292.33 t-CO₂



「ゆめタウン飯塚」の紙袋

環境負荷の低いエネルギーへシフト

太陽光発電を推進



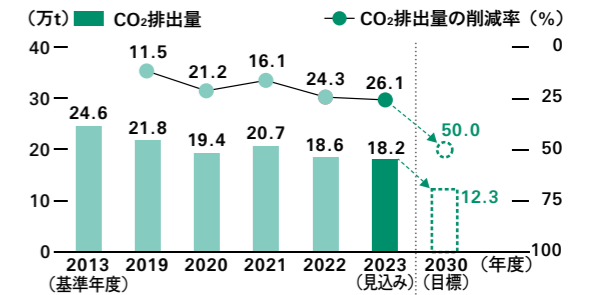
23店舗に設置

再生可能エネルギーの利用拡大に向け、2015年以降、新店では積極的に太陽光発電を実施しています。2024年4月25日オープンの「ゆめmart新大村」にも、発電パネルを設置しました。



「ゆめmart新大村」

店舗運営に伴うCO₂排出量/CO₂排出量削減率(2013年度比)



環境に優しいガスを導入



「ゆめmart西条」に導入した「カーボンニュートラルな都市ガス」は、ガスの採掘から輸送、燃焼に至る工程で発生するCO₂をオフセット（相殺）できるガスです。環境負荷低減につながります。



「ゆめmart西条」

グループ会社にも拡大



イズミグループにも創エネの輪が拡大。ゆめmart北九州では、太陽光発電オフグリッド（太陽光発電した電気を自家消費する）を2店舗に設置。2030年までに13店舗に導入する計画です。



「ゆめmart永犬丸」

省エネ行動をタブレットで啓発

2021年から導入を進めているのが「エナッジ®」です。AIが、毎日その日に合わせた最適な省エネ行動を3つ教えてくれます。従業員は出勤時にタブレットを見て、「作業室のエアコンは、退店時に必ず止める」といった行動をチェック。日々の業務の中で意識的に取り組み、消費電力を削減しています。



AIが省エネ行動をアドバイス



また、省エネ目標の達成度も一目で確認できます。



毎日、出勤時にタブレットをチェック

重油式から電気式へ空調設備を切り替え



従来型の重油式空調設備から電気式空調設備へ、店舗リニューアルの際などに順次切り替えを進めています。この切り替えにより店舗内の快適性を保ちつつ、CO₂排出量を約半分に削減することができます。



重油式の空調設備 電気式の空調設備

屋上看板を20時以降消灯



全店で「ライトオフプロジェクト」を実施し、屋上看板の照明を20時以降消灯するとともに、屋内照明も閉店後1時間、閉店前1時間は20%消灯。その他にも、空調の設定を夏季には1℃上げるなどの地道な工夫をしています。



「ゆめタウン広島」の屋上看板を消灯

限りある資源を大切に 地域に広げる資源循環の輪

傘や衣料品の回収を実施



2023年6月に、不要になった傘を引き取る「傘買い替えキャンペーン」を初開催しました。また定期的に衣料品を回収する「服のMUDA ZEROプロジェクト」を実施。いずれもお客さまに割引サービスやクーポン券を提供し、リユース・リサイクルへの参加を後押ししました。



「傘買い替えキャンペーン」



「服のMUDA ZEROプロジェクト」サーキュラーシステム

古新聞回収でポイント付与



77店舗に設置

持ち込んだ古紙の重量に応じてポイントを付与し、そのポイントをお買い物にご利用いただけるシステム「エコ・ステ」。古新聞や古雑誌などを、現在77店舗（2024年5月現在）で回収しています。今後も設置店舗を増やしていく予定です。



ゆめテラス祇園の回収ボックス

プチプチ回収ボックス設置



2023年3月17日、広島県初の「プチプチ回収ボックス」を川上産業株式会社との協業で「LECT」に設置しました。お客さまに使用済みのプチプチ（梱包材）を持参していただき、再生原料メーカーで加工し、新たなプチプチとして再製品化。プラスチックの国内循環推進に貢献します。



専用のプチプチ回収ボックス

「0円服の交換会」を初開催



2024年4月8日・9日、広島県初開催となる「0円服の交換会」を「LECT」で実施しました。捨てるにはもったいない服をご持参いただき、イベント会場の服と交換していただくサステナブルな取り組みです。2日間で約500人のお客さまが参加され、資源循環の輪が広がりました。



交換用の服が並ぶ会場

飲料ラベルのリサイクル実験開始



三菱ケミカルグループ株式会社との協働で、飲料のラベルを再びラベルに再生する水平リサイクル「ラベルtoラベル」の実証実験を実施しています。2023年10月2日に「ゆめタウン大竹」「ゆめマート西栄」へ回収ボックスを設置し、リサイクル活動の啓発にも力を入れています。



回収ボックスには小学生のメッセージが書かれている

食品廃棄物をリサイクル



店舗の食品部門では、食品廃棄物の分別管理を徹底。資源として再生利用するとともに、焼却処分によるCO₂の排出量を削減しています。東広島市の店舗では地元の双葉三共株式会社と連携し、調理くずなどを有機肥料にして農業に活用。九州では廃油をバイオディーゼル燃料に再生しています。



1mmの分類を実施

店頭でのリサイクル活動を促進

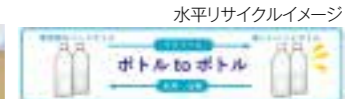
ペットボトルなどを回収



牛乳パックや食品トレー、アルミ缶などの回収ボックスを店頭で設置しています。ゴミの減量・再資源化へのお客さまの関心は高く、年々回収量は増加中です。2022年からは、ペットボトルをペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」の水平リサイクルも実施。専用の回収機を設置し、ゆめアプリ会員様には1本あたり0.2円の値引積立額を差し上げています。

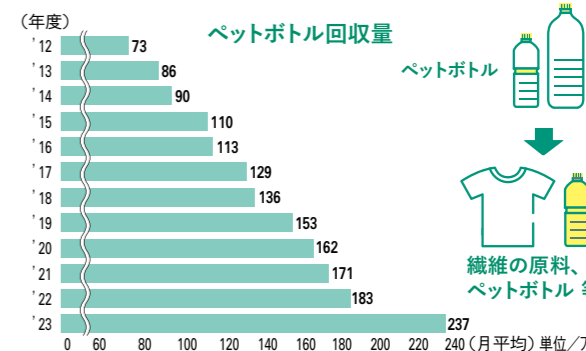
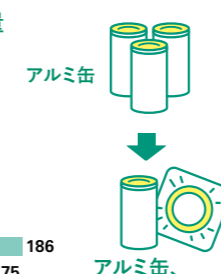
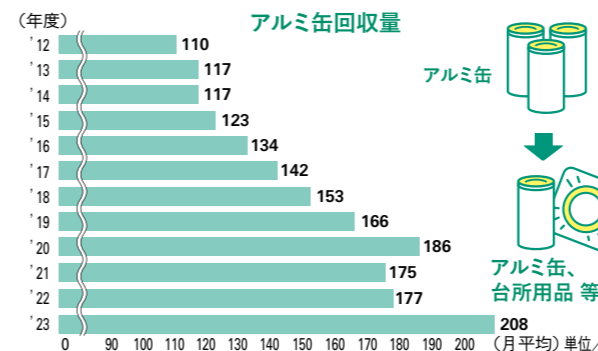
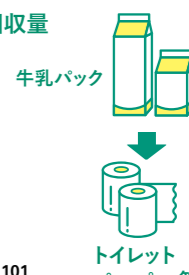
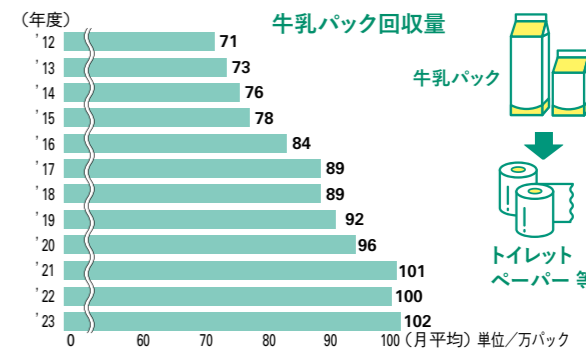
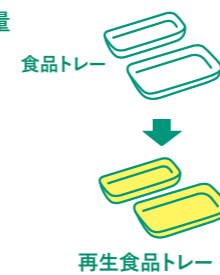
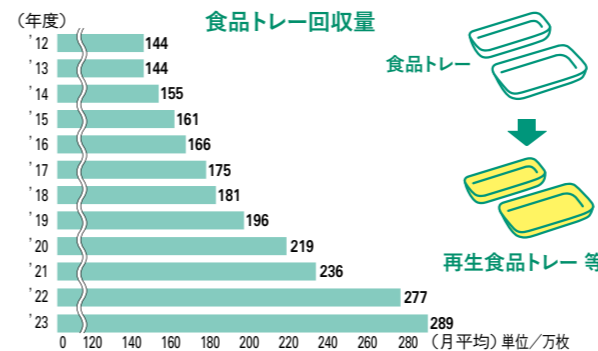


「ゆめタウン飯塚」のリサイクルステーション



値引積立額がたまる回収機

店頭での容器回収量



制服を再生し 買物かごバッグに



制服をエコバッグに再生する取り組みを、2021年度から継続して実施しています。2023年度は白衣やパンツなどをポリエステル原料に再生し、買物かごサイズのエコバッグを作成。抽選企画でお客さまにプレゼントし、レジ袋削減にもつなげています。



大きめサイズのエコバッグ

「ゆめテラス祇園」の従業員が宮島で海岸清掃



2023年4月28日、「ゆめテラス祇園」の従業員46人が、宮島の包ヶ浦自然公園で海岸清掃を実施。事前にSDGs研修を受講したメンバーは「きれいな海と海洋生物を守りたい」と意気込み、プラスチックゴミを中心に77.9kgを拾いました。



熱心なゴミ拾いをする参加者

サステナビリティに関する考え方および方針

イズミグループ経営理念

社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける。

1 サステナビリティ基本方針

- 1 未来を見据えた長期ビジョンを策定し、事業を通じて社会課題の解決に取り組みます。
- 2 すべてのステークホルダーと良好な信頼関係を築き、対話を通じて、共に社会に対して責任を果たします。
- 3 地域とともに発展するため、地域に根ざした活動に取り組み、より良い生活環境を維持・向上させる活動を通して、長期的な価値を提供します。

【マテリアリティ(重点課題)】

マテリアリティ	取り組み内容
地域 お客さま	<ul style="list-style-type: none"> ■ お客さまにとって便利なお買物方法の提供(生鮮デリバリー拡大) ■ 高齢者や単身者などさまざまなお客さまに配慮した商品、サービスの提供 ■ 包括協定や災害時の物資供給に関する協定を締結 ■ 地域のお客さまが集う場所の提供
環境	<ul style="list-style-type: none"> ■ CO₂排出量削減 ■ プラスチック製容器包装削減、資源の有効活用 ■ 食品廃棄物、店舗から排出される廃棄物の削減 ■ 食品リサイクルの実施
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ■ 衛生管理の徹底 ■ 健康に配慮した商品、アレルギー対応商品の取り扱い拡大 ■ 水産物、農産物の持続可能な調達
ダイバーシティ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 女性の管理職比率、障がい者雇用率のアップ ■ ジェンダー平等、若者、高齢者等の活躍支援 ■ ライフステージにあった労働環境の整備

【長期ビジョン】

目指す姿	具体的な取り組み	2030年の目標	2050年の目指す姿
脱炭素社会	CO ₂ 排出量削減	店舗運営に伴うCO ₂ 排出量50%削減(2013年度比) 自社の排出量(スコープ1*1、スコープ2*2)のみならず、スコープ3*3を含めたサプライチェーン全体で削減をする	店舗運営に伴う排出量実質ゼロ
資源循環社会	プラスチック対策	プラスチック製レジ袋の使用量を80%削減(2018年度比) 使用するレジ袋の素材は、バイオマス等へ変更	プラスチック製レジ袋の使用量ゼロ
	食品ロス・食品リサイクル対策	食品ロスを50%削減(2018年度比) 食品廃棄物のリサイクル率70%	食品ロスを80%削減(2018年度比) 食品廃棄物のリサイクル率100%
自然共生社会	生物多様性の保全	サステナブルな商品の取り扱いを拡大し、エシカル消費を推進する	

※1:直接排出量 ※2:間接排出量 ※3:その他の間接排出量

2 気候変動対応方針

近年、地球温暖化が進み、多発する豪雨、台風の大型化などの異常気象を最小限にとどめるため、イズミは気候変動問題に対して取り組みを行います。地球温暖化はイズミが事業を行う地域でも大いに影響があり、もはや他人事ではなく、かけがえのない唯一無二の地球において持続的に生活を続けることができるよう、私たちは、事業を通じて環境問題解決に取り組み、よりよい未来を次世代につなげます。

- 1 脱炭素社会への貢献
- 2 循環型社会への対応
- 3 環境に対する意識の向上

3 調達方針

役員・社員やお取引先様を含む全てのビジネスパートナーと共に商品の製造過程における社会的責任を果たすため、「調達方針」を定めます。

加えて、本方針が定める遵守すべき事項について、イズミグループの商品に関わるお取引先様と協力して取り組んでまいります。

- 1 安全・安心な商品の供給
- 2 法令等の遵守
- 3 人権の尊重
- 4 労働環境の整備
- 5 公正な取引
- 6 情報の保護
- 7 環境の保護
- 8 地域コミュニティへの貢献
- 9 実践のための仕組みの構築・運用

当社の考える人的資本経営

当社では「社員が誇りと喜びを感じ、地域とお客さまの生活に貢献し続ける」という理念のもと、目指す将来像を「街の核」という言葉で表現しています。街に暮らす人々が集い憩う場所の創設、そして地元の行政や産業と連携しながら街の魅力アップに取り組むことで、地域社会の活性化を牽引する中心的存在になることを目指しています。事業活動を通じた地域と企業の価値向上に向けて各資本の強化を行い、価値創造モデルのサイクルを繰り返すことで将来像実現を目指します。

4 人材育成方針

イズミグループは地域社会の一員として地域活性化やお客さまの生活の質向上に携わることに誇りと喜びを感じ、地域貢献できる社員の育成を目指しています。また、リアル店舗は人の価値がすべてという考えのもと、お客さまのニーズや社会環境の激しい変化に対応するため、創業から継承しているイズミDNA「革新」「挑戦」「スピード」を大切にしており、常に好奇心を持ち自らが一段上の仕事にチャレンジする自立した人材の育成を目指します。

を行わず、あらゆる人々の人格と個性を尊び、人権を尊重します。

2 適用範囲

「イズミグループ人権方針」は、「イズミグループの全役員および全社員」に適用されます。また「お取引先様を含むビジネスパートナーや関係者」において、人権に対する負の影響が明らかになった場合、そのビジネスパートナーや関係者に対し、人権を侵害しないよう求めます。

3 人権デューデリジェンスの実施

4 救済措置

5 ステークホルダーとの対話

6 教育・啓蒙活動

7 情報開示

8 重点課題 ■個人の権利の尊重 ■労働者の権利の尊重

5 環境整備方針

働く目的や求める働き方、キャリアに対する価値観が多様化する中、多様なバックグラウンドを持った従業員が個々の考え方や事情に応じて柔軟な働き方を選択でき、性別・年齢・学歴等によらず意欲や能力に応じて自分らしく活躍できる環境づくりを目指しています。

6 人権方針

1 基本的な考え方

イズミグループは、人種・民族・国籍・宗教・思想・信条・性別・年齢・身体的特徴・性自認・性的指向などによる差別

7 ダイバーシティ&インクルージョン方針

人種、国籍、年齢、性別、性的指向・性自認、宗教、信条、文化、障がい、キャリア、ライフスタイルなどにかかわらず、多様なバックグラウンドを持つ社員が互いに尊重し合い、情報・機会においてすべての人に公平な扱いが保証され、能力や個性を発揮し、働くことを通じてやりがいや成長を感じられる組織であることが、競争力の源泉であると位置づけています。

CDPの環境評価で「B」認定

国際NGOであるCDPIは、世界の主要企業の環境活動に関する情報を収集・分析し、8段階評価を行っています。当社は2023年度の気候変動に関する質問書のスコアリングで上位から3番目の「B」評価を獲得しました。



TCFDへの賛同

当社では、2022年TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)に賛同。TCFDが提言する「ガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標」の情報開示フレームワークに基づき情報開示に努めます。

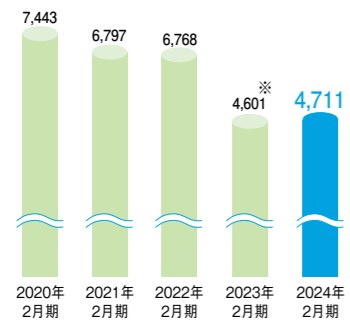


株主のみなさまとの対話を推進

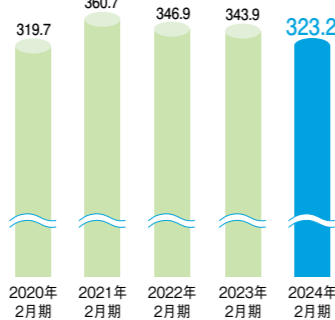
双方向性のコミュニケーションを図ります。

イズミグループ業績概要

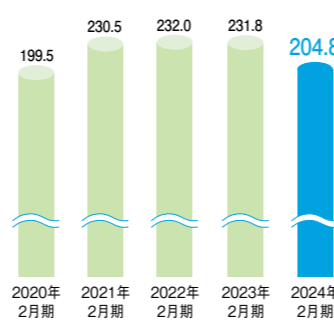
連結営業収益 (単位:億円)



連結経常利益 (単位:億円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:億円)



※2022年度の期首より「収益認識に関する会計基準(企業会計基準第29号)」を適用しています。

◆株主優待制度による利益還元

イズミでは、利益成長に応じた配当金に加え、株主優待券やギフト券の贈呈を行っています。また長期保有特典制度を導入しています。

ご所有株式数	一回当たりの贈呈額	
	株主ご優待券の場合	ギフト券の場合
100株以上	20枚 (2,000円相当)	500円相当
200株以上	30枚 (3,000円相当)	
300株以上	40枚 (4,000円相当)	
400株以上	50枚 (5,000円相当)	
500株以上	60枚 (6,000円相当)	
1,000株以上	100枚 (10,000円相当)	2,000円相当
2,000株以上	200枚 (20,000円相当)	
3,000株以上	300枚 (30,000円相当)	
4,000株以上	400枚 (40,000円相当)	
5,000株以上	500枚 (50,000円相当)	
6,000株以上	600枚 (60,000円相当)	
8,000株以上	800枚 (80,000円相当)	
10,000株以上	1,000枚 (100,000円相当)	

■長期保有特典制度

ご所有株式数	自社商品券の場合	ギフト券の場合
300株以上	2,000円相当	500円相当
1,000株以上	4,000円相当	1,000円相当

■泉美術館ご招待券の贈呈

上記とは別に、泉美術館ご招待券を贈呈しています。

※[株主ご優待券]は、1,000円以上お買い上げにつき、1,000円ごとに各1枚(100円割引券)をご使用いただけます。[株主ご優待券][自社商品券]の対象店舗はゆめタウンゆめマートゆめシティ・LECT・ゆめテラスの各店舗、(株)ユアーズ・(株)デイリーマート・(有)はなわの店舗等でご利用いただけます。専門店によっては一部ご利用できない店舗がございます。
※[ギフト券]は全国でご利用いただけるものを贈呈いたします。
※長期保有特典制度では、現行制度で株主優待券をお選びの方には自社商品券、ギフト券をお選びの方にはギフト券を年1回贈呈します。

◆IRコミュニケーションを推進

イズミでは経営企画部が中心となり、定期的に経営戦略や業績に関して株主・投資家のみなさまとの対話を実施しています。年2回アナリスト・機関投資家向けの決算説明会を実施している他、個人投資家向け会社説明会を開催するとともに証券会社が企画する個人投資家セミナーへ参加しています。

■ホームページへの掲載情報

月次売上、決算資料、業績推移、株式情報、株主総会、IRカレンダー、決算公告、IR information (English)、ニュースリリース、株価情報

■IR情報に関するURL

<https://www.izumi.co.jp/corp/ir/>



コーポレートガバナンスを一層強化

公正な判断により、健全な経営を実施します。

1) 基本的な考え方

お客さま満足の実現を通じて企業価値の最大化を図ることで、株主やお取引先様、社員などのステークホルダーのみなさまのご期待にお応えしたいと考えております。同時に、高い倫理観をもって社会的責任を果たしつつ、地域社会へ貢献します。

このような理念のもと、経営組織や諸制度を整備し透明性・公正性を高めることを重要な課題の一つと位置づけております。そして、取締役会の監督機能の強化、財務の信頼性の確保、業務の有効性と効率性の向上に取り組んでいます。

2) 業務執行、監査等の状況

当社は監査役会設置会社であり、取締役8名(うち社外取締役3名)ならびに監査役3名(うち社外監査役2名)で構成し、取締役会は原則として月1回開催し、充実した審議と取締役の職務執行に関する監督が行われています。取締役会においては、監査役に対して取締役会議案に対する客観的な意見を求めると共に、監査役が取締役の意思決定および業務執行状況の監査をしています。

また、取締役8名の中から代表取締役1名を選定し、代表取締役の下に執行役員19名を選任して業務執行にあたらせております。取締役(社外取締役を除く)で構成する経営会議および取締役(社外取締役を除く)と執行役員で構成する本部長会議を原則毎週開催し、業務執行について機動的な意思決定を行っています。当社グループ会社の経営状況につきましては、当社社長とグループ会社社長との間において3カ月に1回の報告を義務づけ、また、当社グ

ループ経営本部長とグループ会社社長との間で毎月1回の経営課題に係る対応策を協議することを義務づけています。

さらに、適正かつ効率的に経営監視機能を行うために、4名の顧問弁護士による経営に関する助言・指導をいただいています。

3) 内部統制システム・リスク管理体制の整備状況

内部統制システム・リスク管理体制の整備状況につきましては、次のとおりです。

■各事業本部とは独立した経営管理部が主管となってコンプライアンス・リスク管理委員会を毎月1回開催し、当社各部門ならびにグループ会社から選出されたコンプライアンス・リスク管理委員出席の下、当社グループ全体のコンプライアンス教育およびリスク管理のモニタリング活動報告について審議しています。当委員会の議事内容については、取締役および監査役に報告しています。

■イズミグループ行動憲章を定め、当社およびグループ会社の取締役・従業員の行動規範として、事業活動における法令遵守に努めています。また、法令遵守の徹底・意識向上のため「イズミホットライン」(内部通報制度)を設置し、当社およびグループ会社からのさまざまなリスク発生の未然防止に努めています。

■事業活動において生じたさまざまなリスクへの対応については、お客さまの安全確保、被害の最小化を主たる目的として、全社連絡体制を整備して対処しており、地震等の災害時においては直ちに緊急対策本部(本部長は営業統括の取締役副社長)が設置される仕組みとなっています。

業務の執行・監査および内部統制の仕組み

